TOPIC 天竜川決壊を伝える新聞報道

中部日本新聞（現・中日新聞）の関係記事

戦後の混乱期、通信手段や物資が乏しい中、中部日本新聞（現中日新聞）は、洪水発生３日後（10月８日）には天竜川堤防の決壊発生を、５日後（10月10日）には決壊原因を含め、行政の対応に関する記事を掲載しています。

▼昭和二十年十月八日

天竜川決壊　六日午前零時

豪雨のため静岡県浜名郡芳川村地内天竜川堤防が決壊、濁流は芳川、河輪、五島、飯田村の地内を覆い芳川村では三十余名行方不明、二十三名の死者を出した、所轄浜名署では小舟を出して食料配給その他の救助を続けているが、堤防決壊箇所は先頃の空襲で爆撃を受けたところである。なお付近の水田の冠水は三百町歩（約三百万㎡）、甘藷（サツマイモ）畑同三百町歩に達している。

▼昭和二十年十月十日

救援に握飯舟出動
天竜川決壊は壕跡から

六日浜松地方の風水害被害は天竜川西岸堤防の決壊により浜松署管内浜名郡芳川村、河輪村、五島村の被害が最も甚だしく、浜松署では決壊箇所の復旧につとめるとともに死亡者、行方不明者の捜査、避難者の救護に当っているが、八日正午現在で約二尺（約六十㎝）減水したとはいえ被害の最も大きい芳川村金折部落の如き（周辺の）水深なお五尺余り（約百五十㎝）、車馬の交通不能のため同署では舟によって乾パンや握飯をくばり非常炊き出しに当っている。

なお今回決壊した天竜川西岸堤防は防空壕を築造した箇所をそのまま放置しておいたのに雨水が流れ込み今回の大事を惹起（じゃっき）した（引き起こした）もので、当局ではこの際各方面に対し堤防その他危険区域の防空壕その他不要施設は早急に埋めるよう注意を促している。

遠州地方の交通被害

遠州地方の豪雨による交通関係の被害は意外に少なく八日現在バス運行停止は浜松、掛塚間の一線のみで近日中に回復する見込みで他は従来通り時間で運転しており遠州鉄道が高場上島間を徒歩連絡運転が行われている。

冠水甘藷（サツマイモ）を家庭へ配給

五日の暴風雨によって冠水した甘藷は速やかに掘出し当局の手によって一般県民に家庭配給される。この冠水甘藷中良好なものは主要食糧として代替配給し品質が低下していて主要食糧として代替に不適なものはこれを蔬菜（野菜）用として配給されることになった。

Chapter 3

伝承・昭和20年10月5日